

技術者が知って”得”をする、知的財産基礎知識

第1章. 特許と技術者

1. 「知的財産知識」は技術者を成長させる
2. 技術者にとって特許とは
3. 技術者と知的財産の関わり
4. 知的財産権の威力
5. 企業が特許を取る理由
6. 知的財産権の侵害とならないケース
7. 製造開始時期と特許知的財産権の侵害
8. 技術者と特許情報の関わり
9. 技術情報は発明の資源
10. 特許情報の使われ方
11. 特許へ付与されている諸番号
12. 特許出願から特許登録までの流れ

第2章. 出願から登録まで

1. 発明の見つけ方、捉え方
2. 発明の整理と纏め方
3. 実験データ等の取り方についての注意事項
4. 先ず、特許要件を知る
5. 特許明細書の記述事項：第36条
6. 【特許請求の範囲】の記載：第70条
7. 強い特許明細書へ繋がる「発明提案書」の作成方法
8. 特許事務所が書いた特許出願明細書(案)のチェックポイント
9. 出願後1年間に発明者がやること
10. 出願が公開されるまでの注意
11. 拒絶理由通知への対応
12. 他社特許への対応
13. 公知資料の探し方
14. 異議申し立ての方法を決める

第3章. 秘密情報の管理

1. 知財の冰山モデル、知財には「開示知財」と「守秘知財」がある
2. 「開示知財」と「守秘知財」の比較
3. 企業秘密とは
4. 営業秘密が保護される条件
5. 秘密情報の管理と注意点
6. 自社が保有する技術の保護
7. 特許か？ノウハウか？
8. ノウハウ保護で起こしやすい勘違い
9. 先使用権制度を理解する
10. 先使用権制度：特許法 第79条
11. 不正競争防止法を理解する
12. 不正競争防止法で禁止されている行為

第4章. 契 約

1. 共同開発における知的財産の取り扱い
2. 共同出願の種類
3. 共有特許の権利実施
4. 共同出願の利益確保について
5. 契約書の基礎知識
6. 「共同開発契約書」「機密保持契約書」等の秘密情報の注意点
7. 機密保持契約書を結ぶ場合の注意点
8. 他社特許への「特許見解」の求め方と、その書き方（例）
9. 他社からの「特許見解」の応答と、その書き方（例）